

## 進捗状況の概要

### 次世代才能支援室開設

- 1) 実施責任者 徳久千葉大学学長の指揮のもと、プログラムの実施母体である「次世代才能支援室」を設置した。当該室長には高等教育研究機構高大接続・地域貢献部門長工藤一浩教授が就き、各部局等の高大連携・接続担当者の教職員が参加し、全学でのプログラム実施体制となった。
- 2) さらに次世代才能支援室に先進科学センター、高大連携専門部会、サイエンススタジオ CHIBA（教育学部）の実施担当者が加わったことで、既存の高大連携・接続教育組織との協働体制を確立した。このことは既存の高校および教育委員会等の組織との連携を強化する上で役立っている。

### 高校との連携体制

- 1) 重点連携校への Web 会議システム配備し、定期的に活動内容について話し合いをおこなう体制を整えた。これにより 2 期制、3 期制の高校が混在する中で、高大接続のカリキュラム研究としても活用している基礎力養成講座実施がスムーズにおこなえる体制が作られた。さらに関係教員が定期的に各高校を訪問することでプログラムの意義が理解され、本改革の推進強化がなされた。
- 2) 本学で開催されている高等学校校長会、理科部会との連携体制をとることでさまざまな機会に本プログラムの活動内容を広報し、活動推進を図っている。
- 3) 上記と同様に高等学校入試担当者との懇談を実施し、高大接続の観点から本活動の浸透の強化を図っている。
- 4) 高校教員との協働体制強化。高校教員の講座への改善提案を含め積極的関与を進めている。
- 5) 高校教育への支援強化。一部選抜者への支援に偏らないようにとの指摘に沿い、高校への留学生派遣事業によるグローバル化教育支援を開始した。千葉大アンバサダー（サイエンスサポーターを含む）による高校理科授業および文化理解授業の支援の実施し、より多くの高校生の意識改革に努めている。

### 高大接続強化のための高校生学修プログラム

- 1) 基礎講座の充実と拡大 高大協働での募集および実施。全学体制で大学の学びを高校生が知る講座を実施している。
- 2) 課題研究重点支援「G-スキッパー」講座の実施。選抜者を対象とする講座の実施をおこなった。
- 3) 高校における課題研究活動の支援 教員および生徒への支援活動。課題研究のテーマ設定発表などについて支援・指導をおこなっている。
- 4) 高校生のグローバル教育活動支援 留学生派遣、文化学習を含めた教育支援活動の推進。
- 5) 国際研究交流会。海外研究者および留学生を活用し、高校生の英語プレ全力強化を図っている。
- 6) 高校生理学研究発表会。高大連携専門部会と協働し、全国の高校生による研究発表会を開催した。

### 国際協働による高大接続の発展

- 1) ASEAN との科学教育の連携。高校および生徒のグローバル化促進のための連携を強化した。

### 入試改革との連動

- 1) 大学としての特色ある入試の導入

新たに国際教養学部の開設し、新たな A0 入試における本プログラムとの連携の検討を開始した。

- 2) 本プログラムと入試の連動について教育学部 A0 入試において受験生の自己アピールのポイントとして明文化し、公表した。さらに園芸学部 A0 入試への活用も検討し導入が決定された。

### 広報活動

- 1) HP (<http://ngas-chiba.jp/curriculum/>) により、広く活動内容を公開している。
- 2) 学会報告等において積極的に活動と成果について報告している。
- 3) 他 AP 採択大学等との連携。今後、他の AP 採択校と HP 相互リンク等連携関係を強化する。